

POSITIVE CHANGE 地方の老舗企業から時流企業へ

経営トップ講義
@県立大 2018
「ビジネス経済の実践」要旨

①



「グローバルな時流に合わせ、前向きに変化し続けたい」と語る
内海専務取締役
県立大佐世保校(山下哲嗣撮影)

ヒューマングループ専務取締役

うちうみりえこ
内海梨恵子氏(39)

ヒューマングループは、佐世保市と松浦市で自動車教習所を運営しているほか、貸し切りバスや旅行事業、保険代理店などさまざまな事業を展開している。

祖父が1953年に早岐で開いた佐世保自動車学校が始まりだった。モーターゼーション時代の到来を予想し、米軍基地で捨てられた車を修理して教習をしていた。創業から間もないころは少

年院で免許取得の指導をボランティアでしており、社会復帰する子どもの就職を支援したいという願いがあった。62年には日本で初めて障害者向けの教習をスタートし、現在も続けている。

祖父は経営が厳しいときも困っている人々に手を差し伸べてと聞いている。創業精神の「人間愛」が社名に込められており、「ヒューマン」で人々を幸せに「を経営理念に掲げている。

ただ、89年に社長の祖父が亡くなり、会社は痛手を受けた。祖父は全ての仕事を把握する「メインサーバー」のよ

「全員経営」が強みに

うな存在だった。重要な決定は全て社長が担っており、経営は一時混乱した。こうした反省を踏まえ、社長職を引き継いだ父は人材育成に力を入れた。その一つが「マネジメントゲーム」の研究で、全社員が社長となって会社経営を疑似的に勉強している。ゲームを通じて経理や営業の知識を身に付け、いかに利益を出すかを一人一人が意識するようになった。今は「全員経営」が最大の強みになっている。

私は幼稚園に通っていたころから、祖父が創業した会社を父と一緒に大きくしたいという夢を持っていた。女性でも経営者になれるという強い気持ちがあった。東京の大学を卒業し、23歳で佐世保に戻った。経営の現場では男性優位を痛感することもあったが、「壁」を一つ一つ乗り越えた。現在は佐世保青年会議所(JC)の理事長という立場でもあり、女性リーダーとして、佐世保を元気に、豊かにしたいと考えている。

自動車学校業界の将来は、人口減少や人工知能(AI)による自動運転の普及で、明るいとは言えない。創業65年で「老舗」と呼ばれるにはまだ早いかもしれない。それでも、私たちは長い歴史の中でも多くの事業を展開し、素晴らしいスタッフも多く育っている。グローバルな時流に合わせ、既存の事業に磨きをかけつつ、新規事業も打ち出して、前向きに変化し続ける「ポジティブ・チェンジ」を目指していく。

次回は1月15日に掲載します
(田下寛明)